

2019年10月8日放送 NHK「ニュースウオッチ9」

「表現の不自由展」再開と反対運動について

NHK「ニュースウオッチ9」2019年10月8日放送回の検証報告です。

今回の報告では、上記の番組内で放送された「表現の不自由展」に関する部分について検証し、その問題点を探ります。

検証の手順としては、まず放送内容を書き起こし、その内容にどのような問題があるのか、公正な放送の基準である放送法第二章第四条と照らし合わせて検証します。

では、さっそく放送内容をみていきましょう。

【スタジオ】

桑子真帆アナウンサー（以下、桑子アナ）

「続いては、こちらの人ばかり。今日、長い行列が出来たのは、あいちトリエンナーレで中止になっていた『表現の不自由』をテーマにした企画展です。」

有馬嘉男アナウンサー（以下、有馬アナ）

「表現の自由を巡って揺れた企画展。再開初日の現場を訪ねました。」

【VTR】

勝呂恭祐記者（以下、記者）

「今日再開された今回の展示会。それを見ようという抽選券を得ようという人たちの列、ここが最後尾となっています。ここからあちら、ずらっと多くの人が並んでいます。」

※8月の映像

いわゆる従軍慰安婦の少女像などが映る。

ナレーション

「8月1日に始まったあいちトリエンナーレの『表現の不自由』をテーマにした企画展の再開。60人の定員に対し、1300人余りが抽選に参加しました。」

※10月7日、愛知県知事の記者会見の様子

ナレーション

「今回の再開に対し、実行委員会会長の大村知事は。」

大村知事

「中止に追い込まれたものが全面再開するという例はない。国民みんながそう望んでいた。」

※会場付近でインタビューを行った映像

ナレーション

「企画展を見に来た人は。」

男性

「本来はこうあるべきだと思うんですけどね。作品を流してくれた美術館に対するその判断に拍手をしました。」

※再開に反対する人々の様子

ナレーション

「一方で、再開に反対する人も。」

女性

「人の気持ちを癒すものではなくて、怒りを覚えるような。そんなのは芸術ではない。」

ナレーション

「再開に反対している名古屋市の河村市長は。」

河村市長

「何度も言っているが、とんでもないこと。再開はやめてもらわなければならんと。」

※『表現の不自由』展示の映像

少女像にばかりフォーカスされている

ナレーション

「開幕からわずか3日で中止に追い込まれた企画展。なぜ事態が起きたのか。」

※8月3日、大村知事による記者会見の映像

大村知事

「(少女像を)大至急撤去しろ。さもなくば、ガソリン携行缶を持って館へお邪魔するので、というファックスがありました。このままでは、安全に展覧会を運営することが危惧される。」

ナレーション

「テロ予告や脅迫ともとれる電話などが相次ぐ中、リスクを回避するための対策が十分にとられていませんでした。」

※10月6日に開催された「あいちトリエンナーレのあり方検討委員会」などによるフォーラムの様子

ナレーション

「この事態に、芸術祭に作品を出展した作家などからは非難の声が相次ぎました。」

女性

「作品を見る機会が奪われれば、作品にあらわれる様々な思考を受け止めることは不可能です。」

女性

「聞かれなかった声、かき消されてしまった問題こそに耳を傾けるような、まあそういうアートの形をつくっていかなくてはいけないと。」

ナレーション

「こうした中、文化庁は申請の手続きが不適切だったとして、補助金の全額不交付を決定。これに対しても、芸術家などから批判が相次ぎました。」

ナレーション

「展示の再開に向けて実行委員会が力を入れたのが安全の確保です。」

記者

「今回の展示、安全面にも考慮して行われました。ご覧のように、会場には警備員も多く立っています。」

ナレーション

「会場に持ち込めるものは貴重品だけ。指定のビニール袋に入れ替えてもらいます。入場者による撮影も禁止しました。それだけに留まりません。」

※参加者が金属探知機のチェックを受ける様子

記者

「金属探知機での検査を受けたうえで、会場内へと入っていきます。」

※会場内の様子

ナレーション

「さらに、実行委員会が力を入れてきたのが、表現の自由や作品のメッセージについて、一緒に考える場づくりです。」

※表現の自由などについてポスターに記載されている

VTR では以下のような Q&A が映されていた。

・芸術って心地よいもの？

Q「こんな不快なものが芸術作品なの？」

A「受け取りかたは人それぞれじゃない？」

以下、ポスターに書かれていたものの要旨

「ホラー映画やギャング映画に『きれい・気持ちいい』を求めてないでしょう？」

「岡本太郎の言葉に『芸術はうまくあつてはいけぬ、きれいであつてはいけぬ、心地よくあつてはならない』というものがあるよ。」

ナレーション

「作者がどのようなことを考えているのかなど、芸術作品が作られた背景を知ることが重

要だと、パネルなどで説明しています。展示を見た人からは、様々な意見が。」

男性

「どの展示がどうってことではなくて、トリエンナーレという場で見せるということが適切というか、効果的であったかどうかは凄く疑問です。」

女性

「自分と違う思いを持っている人がいるけど、その人がどうしてそういう発言をするのかとか、まあ考えるキッカケになるような展示だったかなと思います。」

ナレーション

「意見の分かれる展示。表現の自由を守るためにはどうすればいいのか。」

横大道聡教授（慶応義塾大学法科大学院）

「再開するというのは、判断として妥当であったかと考えております。表現は誰にとっても心地のいいことだけが流通するわけではなくて、表現を抑圧するというか、自粛することは、これはあるべきではなくてですね、しかるべき警察の対応であるとか準備をして、表現の自由を守ることが重要になってくると思います。」

【スタジオ】

桑子アナ

「ここまで警備が必要なのかというのは正直に驚きましたけれども、見学者が様々な意見を交わす機会が保障されたということは、専門家も評価しているんですね。」

有馬アナ

「そしてもう一つ問題が残っていますよね。文化庁が補助金 7800 万円を全額交付しないとされた問題です。大村知事は裁判で争う考えを示しています。」

以上が放送内容となります。

では、今回の報道にどのような問題があるのかを整理してみます。
今回の報道で、我々が問題だと考えたのは次の点です。

①なぜか河村市長が座り込みをしていたことを報じていない

②作品のメッセージを一緒に考える等と言いながら、SNSでの拡散は禁止しているという運営側の対応を報じていない。

③市民のコメントは賛否とも取り上げていたが、有識者からのコメントは再開を評価するものだけだった

以下で詳しく説明します。

10月8日の午後から「表現の不自由展」が再開されることを受け、名古屋市の河村市長は抗議の座り込みを行いました。そこでは、「天皇陛下への侮辱を許すのか!」と書かれたプラカードも掲げられており、展示会で公開されていた作品を批判する市民の姿もありました。

しかしながら、番組内では河村市長のこうした抗議活動を一切映していませんでした。「反対」のプラカードを持つ市民の映像は流れていましたが、河村市長が座り込み活動を行ったことには映像でもコメントでも触れていませんでした。また、河村市長の紹介は「再開に反対している河村市長」と説明するにとどまり、唯一流れた記者会見の様子も河村市長が「何度も言っているが、再開はやめてもらわなければいけない」と発言した部分を切り取っただけでした。

加えて、番組内で放映された展示作品は「少女像」ばかりにフォーカスが充てられており、さも日韓関係が問題の背景にあるかのような印象操作も見受けられます。「表現の不自由展」では昭和天皇の御真影が燃やされる作品などもあり、あらゆる作品の展示に疑問の声が上がっていることが全く報道されていなかったのです。

また、番組内では展示会の再開に向けて運営側が努力をしたという様子が報じられていましたが、展示会の内容をSNSにアップロードしてはならないといった不可思議な対策には触れておらず、何の追及もありませんでした。安全に、かつ幅広い人々に作品の内容を知って貰いたいのであれば、SNSで拡散するのは効果的な方法です。しかし、それを禁止して、ごく一部の限られた人にしか税金を用いて展示している作品を見せないというのは非常に合理性に欠けた対応だと思われまます。

さらに、運営側が再開に向けて努力したのは事実かもしれませんが、一方で反対派にもそれなりの理由があるのも事実です。運営側が脅迫や抗議を受けたことを単に報じるだけでなく、なぜ反対運動が起きたのかまで掘り下げて報じるべきではなかったのでしょうか？

このように、河村市長の抗議活動や運営側の不可思議な対応策について報じないことは、放送法第二章第四条「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に違反している可能性があります。

また、市民のインタビュー映像では、「表現の不自由展」に関して賛否両論を取り扱っていたのに対し、有識者である大学教授の評価は展示会再開に肯定的な意見のみを取り上げていました。VTRの締めには該当する部分で、一方の意見に偏った有識者の意見のみを放送することは、上述の報道されていない事実と相まって、視聴者に対して再開が妥当であるかのよう誤認させる可能性があります。これは印象操作といっても過言ではないでしょう。

以上の通り、10月8日に放送されたNHK「ニュースウォッチ9」には複数の問題点が見受けられました。公平公正なテレビ放送を実現すべく、視聴者の会は今後も監視を続けて参ります。